

雨過天晴 ブルーベリー狩り交流会行う

TNC
通信
2023
8月号

上海在住・菅原氏が名誉会員に
先月の総会で日中友好写真展開催(2回、市役所)に全面的協力をいただいた元会員の菅原寿和氏が名誉会員に推薦され、承認されました。



前日の激しい雨もおさまり、留学生 8 人を含む 16 人が参加し、7 月 9 日「ブルーベリー狩り交流会」が行われました。初めに「高橋摘み取り農園」(写真⑤⑥)で、甘いまた少し酸味のあるブルーベリーを摘み取り、食しました。

この後、「とみふら」3階の民俗ギャラリー(写真⑦⑧)を訪れ“太古から現代までの富谷”の民俗資料、特別展示の“富谷隕石”を見学。日本の古い歴史を示す資料展示や配布される“民ギャラカード”に皆さん、興味津々でした。

この後、奥州街道宿場町の旧佐忠商店(写真⑨⑩、登録有形文化財)に立ち寄り、店主さんから魯迅ゆかりの内山書店と内ヶ崎作三郎の関係についての話を聞くこともできました。

最後は「とみやど」(写真⑪⑫)で昼食と散策を楽しみました。皆さん、辛苦了!



『シン・中国人—激変する社会と悩める若者たち』(斎藤淳子著 ちくま新書 946円)
「中国の過去二十数年の変化は世界が未だに経験したことのない圧縮型の超高速発展だった。当然のことながら、この間、中国の若者たちも大きく変化した」一本書は北京在住26年、在北京日本大使館勤務等で得た幅広い人脉を通しての生の声、そして各種統計を分析して一歩踏み込んだ、若い世代の問題を伝えてくれる。



生活、金銭感覚、恋愛、結婚、離婚、出産から住宅事情から結納金の話まで多様だ。親の世代とは全く異なる価値観やセンスを持つ“シン・中国人”は興味深いとともに、結婚・離婚率や人口増加率等、実は“シン・日本人”にも見えてくるのだ。
(M)



「魯迅之碑」と東洋刃物(株)

先月の当会総会でご講演をいただいた大石社長に改めて御礼を述べるとともに、後日談が。『魯迅・藤野先生・仙台』(半沢正二郎著、S41年出版)を引用する。「魯迅の碑を仙台市に建てようという話のキッカケは、高橋剛彦(当時東洋刃物KK社長)が第1回訪中実業団の視察から帰ってきたとき(1957年)であったと思う。小林軍太郎(秋保電鉄社長)なども熱心に唱えたのが記憶にある」(中略)「高橋の発言で熊谷岱蔵医博を委員長に推挙し快諾を得た。この三人の故人の力がなかったならば、おそらく事は至難の難であったろう」とある。高橋氏が委員として1961年4月5日の許広平女史を迎えて行われた「除幕式」に臨んだことは言うまでもない。

§ WBCと中国チーム §

予選第1ラウンド初戦。日本は中国と対戦。中国は世界ランク最下位の30位。しかし先発・大谷から1安打、戸郷から本塁打を放ち、6回まで3対1と大健闘。徐々に実力アップのようで、以前は台北や韓国に勝っている。今回、真砂



勇介(元ソフトバンク・現日立製作所)が中国チームに。中国版ノートバーだ。両親が中国出身で実父が来日後も中国籍を有していたため。野球はマイナーな中国だが第1回から出場。プロチームは北京タイガーズ、天津ライオンズ、広東レパーズ、江蘇ヒュージホース等がある。